

菊人形・菊花展 案内図



岐阜公園菊花展には、愛菊会会員の手によって育てられた菊、7部門約3,000鉢を展示しており、特に、木付け菊の出展数については全国一を誇ります。

また、平成8年度より主に菊(20種類以上の菊、450鉢)を使用した庭園を作成し、その中で菊人形の展示も行っています。

● 山菊総合花壇

木付け、石付け及び文人等、5鉢以上の作品を組み合わせ、一つの花壇として構成したものです。これは、この地方特有の作風で、他ではほとんど見られず本菊花展の特色を表すものです。

● 大菊花壇

大輪菊の3本立ち12鉢もしくは、一本立ち20鉢をもって一つの花壇を構成したものです。

● 美濃菊

皇室の紋章の图案といわれる一文字菊を祖先に持つこの菊は、名前から推察されたとおり岐阜が発祥の地です。この花の特徴は花弁の表裏の色が異なるものがあり一種のそう重味と艶やかさを持っています。

● 大菊小作り

7月頃に菊の芽差しを行い、比較的短期間に育成し花を楽しむもので、一鉢一本立てとし10鉢をもって一花壇を構成します。

● 小菊盆栽

この部門は、小菊自体の特性を生かし、作品の中に幹や根を強調し、盆栽風に仕立てられたもので、数年栽培されている古木も含まれます。

● 小菊盆養

この部門は、全国的にも珍しいこの地方特有の作風で、古木を主体にして小菊を育成したもので、あたかも樹齢数拾年を経て現在に咲き誇っている感をかもし出しています。

● 自由花

この部門は、作者が自由な発想に基づいて育成した菊花作品を展示したもので、出展にあたっては大菊、新花、古花等、規定はありません。

自由花の部



自由花の部



自由花の部



大菊・千輪仕立て



大菊・千輪仕立て



信長と濃姫



平成22年度菊人形テーマ 『若き日の信長 まむしの道三を呑む』

1553年(天文22年)4月下旬、信長は斎藤道三の会見の申し出を受け、美濃と尾張の国境の富田正徳寺に赴く。道三は婿のうつけぶりを見ようと、先回り町屋に潜み信長の到着を待つ。織田軍の軍列には長槍や鉄砲隊の配備など目を見張るのがあったが、信長の風体は噂に違わず、うつけの出で立ちであったため安心し、娘濃姫を取戻す算段を一つ会見場所の正徳寺に戻る。しかし、正徳寺で信長を待つも、いつこうに信長は会見の部屋に現れず、しびれを切らした道三は信長のもとに行くと、先ほど出で立ちからは想像も出来ぬ正装した信長が。あつけにとられる道三。素知らぬ顔の信長。家臣が信長にこの方が斎藤道三であると紹介するが、信長は一言「そうか」と。

その後、会見は行われるが、短時間で終了する。このときの道三の心中はいかに。婿のうつけぶりを嘲笑し、その場で殺してしまおうとさえ考えていた目論見も泡と消え、ただ苦虫をかみつぶした面もちで対座する中、この男は後に尾張だけでなく、この美濃の国をも支配するであろうと確信するのである。

会見後、信長を見送る際に道三は、「やがてわしの子孫は“信長の馬の轡(くつわ)をとる”(家臣になる)だろう」と側近に漏らしたという。

山菊総合花壇の部



大菊花壇の部



美濃菊の部



大菊小作り(福助花壇)の部



小菊盆栽の部



小菊盆養の部



菊の博学

- ・キク科キク属に含まれる宿根草で、学名をクリサンセマム・モリフォリウム (Chrysanthemum morifolium) といいます。日照時間の長い時期に成長して、日照時間が短く(13時間以下)になるとつぼみをつけ開花する短日性植物です。
- ・早咲きは開花期が11/3前後、中咲きは開花期が11/7前後、遅咲きは開花期が11/10前後です。

菊の歴史

- ・菊の原産地は中国で3,000年以上の歴史があり、日本へは奈良時代中期に遣唐使などによって、薬用植物(解熱、頭痛、めまい、長寿など)として入ってきたと言われています。
- ・平安時代には、9月9日の重陽の宴で花を觀賞し、赤白黄の綿を花にかけて菊酒を飲み、その綿で身体をぬぐう「着せ綿の行事」が行われていました。(老いを防ぐ効果がある。)
- ・一般庶民に菊栽培が広がったのは、江戸時代中期の1710年代(正徳～享保)に花径18cm以上の大菊の新花を競う「菊合わせ」が盛んになった頃からです。入賞すると新花の苗1本が3両にもなったため、一攫千金と名誉をかけて一般愛好家が交配実生に熱中し、次々と優れた品種が誕生しました。また、この時代に地域独特の古典菊も誕生し、江戸の植木屋が菊で富士山や名所の風景、菊人形などを作りはじめ、現在の菊作りの型がほとんど揃ったと言われています。
- ・明治20年代には、各地に菊花会ができ、大菊三本仕立て(盆栽)が流行し、その華を競い始めました。懸崖や盆栽は大正初めに流行し、以後広く作られるようになりました。
- ・日本で大きく発展した菊は、明治以降、世界各地に運ばれ、品種改良がなされました。オランダではスプレー菊、アメリカでは鉢花用のポットマムが発達しました。

菊の種類

- ・大 菊(和菊) : 花の直径が18cm以上で、花型によって「厚物」、「管物」、「広物」に分かれます。「厚物」は、更に「厚物」、「厚走り」、「大掴み」に分かれ、「管物」は、管の大きさで「太管」、「間管」、「細管」、「針管」に分かれます。また、「広物」は一重咲きの「一文字」と八重咲きの「美濃菊」があります。
- ・古典菊(和菊) : 江戸中期に各地の殿様の保護奨励によって地域独特の発展を遂げた菊の総称で、昔の地名で呼ばれています。その種類には、嵯峨菊、伊勢菊(松坂菊)、肥後菊、江戸菊、美濃菊、奥州菊などがあります。
- ・小 菊(和菊) : 花の直径が9cm未満で山菊と呼ばれることもありますが、懸崖仕立てや盆栽用に育成された小輪の菊です。花色、花型、生育の特徴など極めて多彩で、種類が豊富です。
- ・洋 菊 類 : 洋菊とは、欧米に渡った日本の菊がそれぞれの国の好みによって改良されたものの総称であり、クッションマム、ポットマム、スプレー菊などがあります。

菊の仕立て方

- ・大 菊 : 三本仕立て、一本仕立て、七本仕立て、千輪作り、競技用切花、ダルマ作り、福助作りなど
- ・古 典 菊 : ほうき作り、七五三作り、天地人作り、篠作り、肥後菊花壇など
- ・小 菊 : 懸崖作り、杉作り、造形、ポットマム、クッションマム、盆栽作り、直幹仕立て、双幹仕立て、岩付け・木付け盆栽、盆栽懸崖、柳仕立て、筏吹き・根つながり、寄せ植え、木付けなど
- ・そ の 他 : 弥彦作り、菊人形、総合花壇など

お問い合わせ先

岐阜市都市建設部公園整備課
〒500-8701 岐阜市今沢町18番地
TEL: (058) 265-4141(代) FAX: (058) 262-0512
e-mail kouen@city.gifu.gifu.jp

岐阜公園管理事務所
〒500-8003 岐阜市大宮町1丁目46番地
TEL: (058) 262-3951 FAX: (058) 262-3951

第39回岐阜公園菊人形・菊花展

菊作りの名人たちが育てた大菊、小菊、美濃菊、そして菊人形など3,000鉢余りの作品を展示するほか、華やかな菊庭園が出現します。菊の香が漂う岐阜公園に、ちょうど秋の深まりが訪れるのです。



菊人形 左から齊藤道三(手前)、堀田道空(奥)、織田信長(手前)、佐脇良之(奥)



菊庭園

平成22年度菊人形テーマ

『若き日の信長 まむしの道三を吞む』

開催期間 : 平成22年10月23日(土)～11月23日(火・祝)
AM9:00～PM5:00(※会期中無休、無料)

開催場所 : 岐阜公園(岐阜市大宮町1丁目)

駐車場 : 普通車 195台(一回300円)

バス 9台(一回1,000円)

アクセス : JR岐阜駅または名鉄岐阜駅からバス15分
「岐阜公園歴史博物館前」下車徒歩2分



主催 : 岐阜市

共催 : 岐阜公園愛菊会、岐阜市緑化推進研究会